

1. 発達障害とは

発達障害者支援法（2005年4月1日施行、2016年改正）

- 「自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう」
- 「その他」とされている障害・疾患は、厚生労働省の省令で定められ、吃音や、トゥレット症候群、選択性緘黙が含まれる。

※診断基準DSM-5で表記

※自閉症
スペクトラム

ASD (自閉スペクトラム症)

自閉症、広汎性発達障害
アスペルガー症候群
が含まれる

知的な遅れを
を伴う場合もある

※注意欠如・多動症
AD/HD

注意欠陥多動性障害

※限局性学習症
SLD

学習障害 LD

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder)

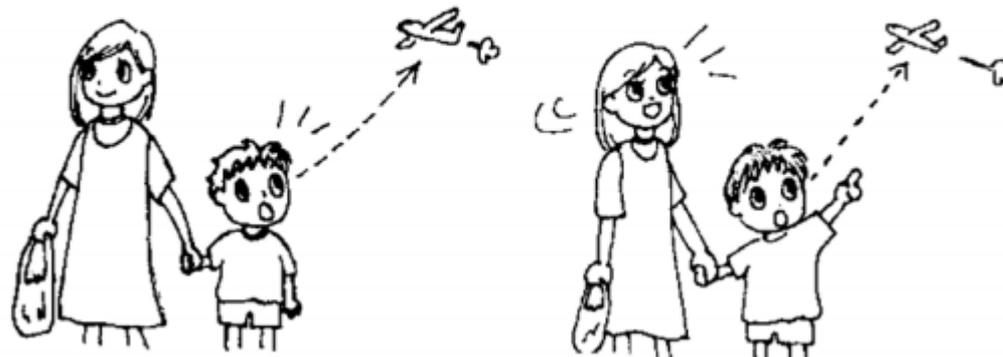
- A 社会的コミュニケーションおよび
对人的相互反応における持続的な欠陥

- B 行動、興味、または活動の限定された反復的
な様式

1-(1) 自閉スペクトラム症のチェック 「M-CHAT」

- 16ヶ月～30ヶ月
- 子どもの日頃の様子について、「はい」または「いいえ」で主たる養育者が回答する
- 全23項目
- 不通過項目が3項目以上で疑い

7. なに きょうみ した何かに興味を持った時、とき ゆび指をさしてつた伝えようとしていますか？



1-(2) 自閉スペクトラム症のチェック 「PARS-TR」

親面接式自閉スペクトラム症評定尺度

- 3歳～
- 自閉スペクトラム症(ASD)の発達・行動症状について、主たる養育者に面接をする
- 57項目

診療報酬点数区分 D 2 8 5 - 3 点数 4 5 0 点
注) 医学的診断に代わるものではありません。ASDの
確定診断は、専門医によってなされる必要があります。



注意欠如・多動症(ADHD)

①不注意

②多動性・衝動性 が

同年齢の子どもと比較して顕著な障害

12歳以前より見られ、複数の状況で存在

1(3) ADHD傾向のチェック 「Conners3」



- 6～18歳 注意欠陥・多動性障害(ADHD)とその周辺症状を評価
- 過去1ヶ月の行動評価
 - 保護者用(自分の順番を待つのが苦手だ)
 - 教師用(順番を待たずに話し始める)
 - 本人用(自分の番を待つのは、いやだ)

限局性学習症

(SLD: specific learning disorder)

全般的知的能力が平均域以上であり、学習環境に問題がないのにもかかわらず、読字、書字、計算、数的概念など、特定の領域における学習の習得困難を示す。

むかしむかし、あるところに、おじいさんと
おばあさんが住んでいました。
おじいさんは川へしばかりに、おばあさん
は川へせんたくに行きました。おじいさん
おばあさんが川でせんたくしているとき、
大きな桃が流れ
てきました。

ア	高	日	毛	風
	高	日	毛	風
イ	高	日	毛	風

発達障害の特徴

- ① 脳の機能障害による。
- ② 日常生活で失敗経験が多く、劣等感がある
- ③ 周囲の人々の無理解から、甘え、わがまま、努力不足と思われる
(二次的障害)

対応⇒子どもの過ごしやすい環境整備

→できないことが減る

→安心感、有能感、適応

2. 発達検査の目的

- 子どもの運動や言葉の発達の程度を確認する
- 子どもの状態、特徴を把握して、どのように支援するとよいか考える
- 医療機関で受けた結果にもとづき、特別児童扶養手当や療育手帳の申請・取得する

★項目が出来るかどうかよりも、どこまで発達が進んでいるかという個人差を見る

- ①遠城寺式乳幼児分析的発達検査
- ②DENVER II デンバー発達判定法
- ③新版K式発達検査2020
- ④乳幼児精神発達診断法(津守・稲毛式)

①遠城寺式乳幼児分析的発達検査

九州大学小児科改訂版（1975）

- 運動面（移動運動、手の運動）
- 社会性（基本的習慣、対人関係）
- 言語面（発語、言語理解）

発達領域毎に発達指数（DQ）を出せる

$$DQ = (\text{発達年齢} \div \text{暦年齢}) \times 100$$

遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 判定法

- 出来たらP、出来なかったらF、半分出来たら△
- Fで一段下げる △で半段下げる

発達指数を出してみましょう

例 もし4歳0か月の子どもが、「スキップができる」がFで、「片足で数歩跳ぶ」がP(出来た)場合、
「3:8~4:0」が発達年齢です。

→3歳8か月と4歳の中間の3歳10か月とします。

発達指数 = (発達年齢 ÷ 暦年齢) × 100でした。

年齢はすべて月齢にして計算します。

②DENVERⅡ デンバー発達判定法 0から6歳

グレー: 75~90%



赤星：「独り立ち」は約75%が出来る状態であることが分かります

青星：「意味のある単語を言う」は約50%が出来る状態になります

赤枠：つたい歩きは11カ月で90%が出来る状態を示しています

③新版K式発達検査2020

- 「姿勢・運動」(P-M) :

片足ずつ階段を登れるか、ケンケンができるか

- 「認知・適応」(C-A) :

視覚的な情報の認識力、対応力の度合い

(先生を同じことを真似て再現できるか、など)

- 「言語・社会」(L-S) :

言葉の理解力・表現力・社会認識の度合い

(言葉で説明できるか、数を記憶できるか、など)

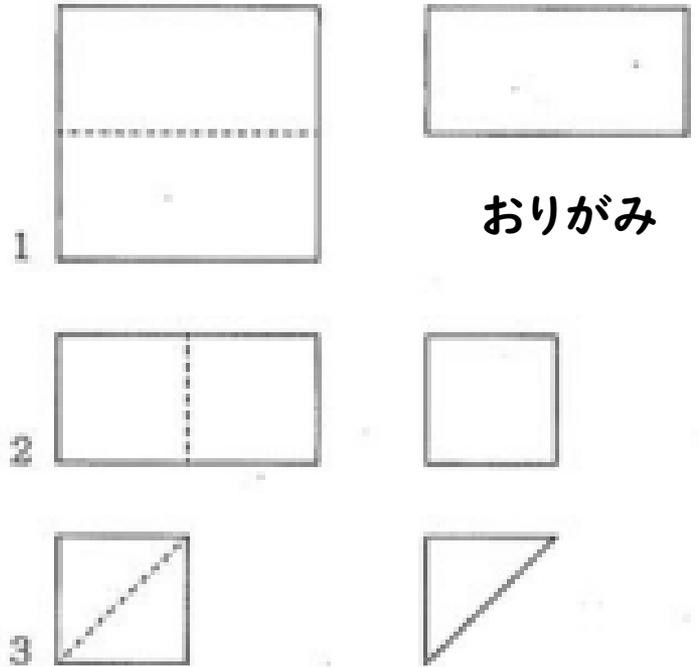
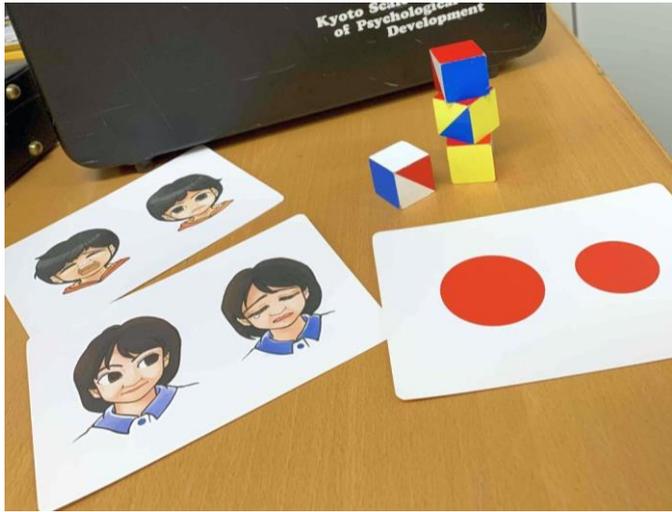
★教育や学習で左右されないものを測る

- 発達年齢 (Developmental Age: DA) 発達指数 (Developmental Quotient: DQ)

積み木を積む

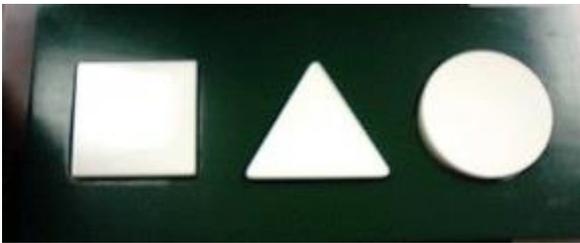


場所を記憶する



おりがみ

形にはめる



④津守・稲毛式 乳幼児精神発達診断

- 母親（または、主な養育者）に乳幼児の発達状況をたずねる
- 幼稚園・保育園のクラス担当の観察
- 「運動・探索・社会・生活習慣・言語」の5つの領域で診断。

0～1歳、1～3歳、3～7歳の用紙



- ○: 毎回できる
- △: できたりできなかったりする、経験がない
- ×: できない

3. 知能とは

- 目的的に行動し、合理的に思考し、効果的に環境を処理する総合的、全体的な能力

ウェクスラーの定義

- 学習する能力 問題解決能力
- 環境への適応力

知能検査の歴史

ビネー 1905 世界初の知能検査

目的: フランス 小学校の普通教育についていけない子どもの判別

方法: 問題を簡単なものから、難しいものへ
何歳水準の問題まで解けたか

IQ: 知能指数 スタンフォード・ビネー法の場合

$$\text{精神年齢(MA)} \div \text{暦年齢(CA)} \times 100$$

A君は、5歳なのに、4歳の問題までしか解けない

$$\text{IQ} = 48\text{ヶ月} \div 60\text{ヶ月} \times 100 = 80$$

B君は、10歳だが、9歳の問題までしか解けない

$$\text{IQ} = 108\text{ヶ月} \div 120\text{ヶ月} \times 100 = 90$$

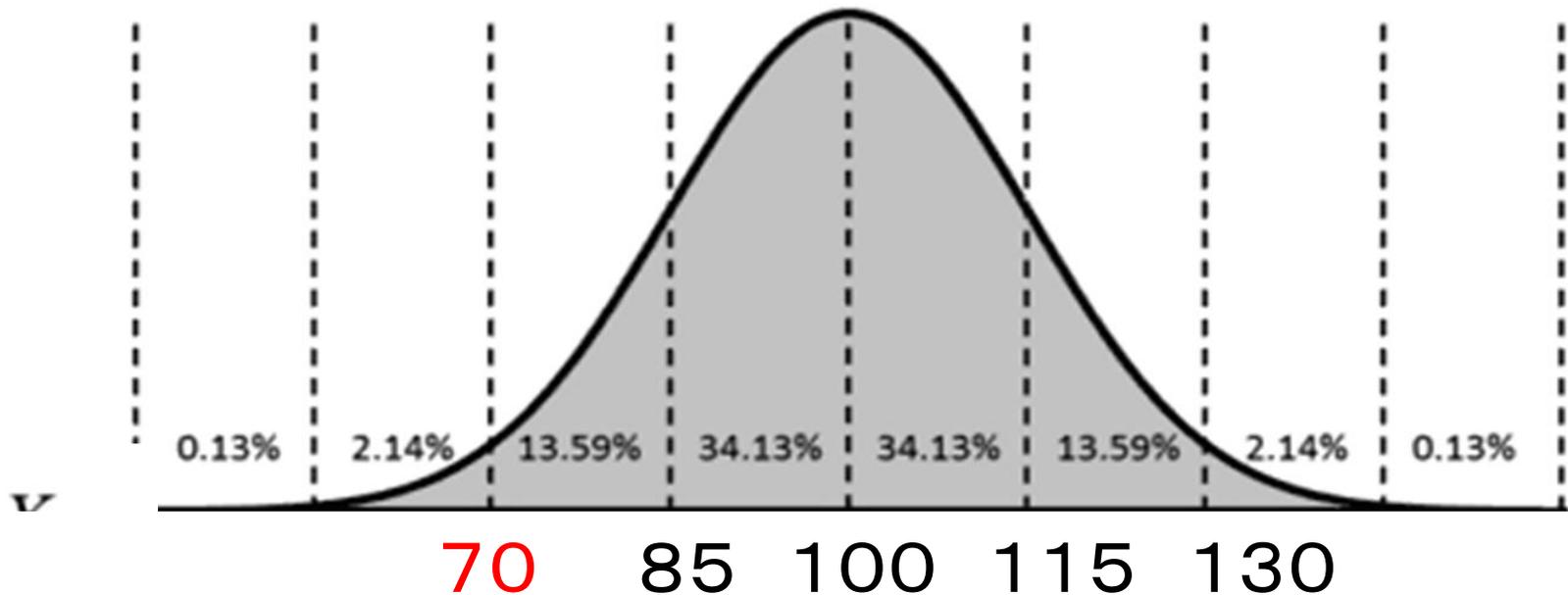
その子の年齢水準の問題までとければ、IQは100

偏差知能指数 (DIQ) ウェクスラー式の場合

$$\frac{(\text{個人の得点} - \text{一年齢集団の平均値}) \times 15}{\text{標準偏差}} + 100$$

標準偏差

68.2%の人が、IQ: 85~115の範囲にいる



知的能力障害は、医学領域の「精神遅滞」と同じ意味。
目安はIQが70以下

田中・ビネー知能検査 V

- 課題の困難度に応じて1歳級から成人級まで年齢段階に応じて分けられた問題
- 適用 2歳～成人
- 2～13歳までは、検査の結果として算出された精神年齢を、子どもの生活年齢(暦年齢)で割り、100をかけて「知能指数:IQ」を算出
- 14歳以上は偏差知能指数(DIQ)を算出→「結晶性」「流動性」「記憶」「論理推理」の4つの領域で評価する



ウェクスラー式知能検査

WISC-V

- 5歳0カ月～16歳11カ月
- 全体的な知能 (FSIQ)

- 5つの主要指標

言語理解

ワーキングメモリー

視空間

流動性推理

処理速度



WISC-V の5つの指標の下位検査

※全体的な知能(FSIQ)算出に必要

言語理解 VCI

類似
単語

ワーキングメモリ WMI

数唱
絵のспан

視空間 VSI

積み木模様
パズル

流動性推理 FRI

行列推理
バランス

処理速度 PSI

符号
記号探し

VCI(言語理解)

語彙の豊かさや習得知識

言語理解(読む、聞く)、表現(話す、書く)

弱い子への対応

- ①説明や指示を短く、やさしい言葉で簡潔に
- ②指示が正確に伝わったかどうか確認する
- ③文や言葉だけでなく、絵、図、文字、モデルを示して伝える

WMI(ワーキングメモリ)

短期記憶のこと(情報の保持と処理を行う)

聴覚を通じて入力された情報の中から、処理に必要な情報を選別し、それらを保持しながら処理を行う能力

弱い子への対応

- ①説明や指示を短く簡潔に、繰り返す
- ②学習に必要無い刺激を排除する
- ③注意をこちらに向けさせてから指示や説明をする
- ④メモを活用する

VSI(視空間)

視覚情報処理

物体のある場所、形、大きさ、向き、物体どうしの位置関係などをすばやく正確に認知する力

弱い子への対応

①図よりも、言葉によるわかりやすい説明

②物の配置「下から2つ目の棚の右」

③空間を把握する練習

「この袋の中に、この用具は全部入るかな？」と聞いてからやってみるなど

FRI(流動性推理)

視覚情報処理

自動的に処理することの出来ない比較的新しい活動に直面した時に機能する知的活動

図や絵柄などの非言語情報の特徴と、それらの特徴の関係性や規則性(パターン)などを察する力、推理する力

弱い子への対応

- ①見通しを持たせる
- ②問題解決の手順や活動の順序を明示する

PSI(処理速度)

情報処理のスピードや筆記能力
複数の情報を一度に処理

弱い子への対応

- ①焦らせない(せかされると力を発揮できない)
- ②板書の負担を減らして、プリントを配布する
手順票をみせる
- ③十分な時間を与える